

三面獅子が舞う神社の祭礼

湯浅ばなし **10**



國津神社の三面獅子

三面獅子とは

荒れ狂う魔物としての獅子を、鼻高面のオニと、牙をむいたワニが鉾を持って鎮める様を描いた獅子舞です。この形態の獅子舞は、この周辺で多くみられるものですが、舞われる神社によって少しずつ様子が違います。湯浅町には、古くから伝わる三面獅子として、田の國津神社と湯浅の顯國神社のものがあります。

國津神社の三面獅子

田の國津神社の三面獅子は、獅子を4人で演じます。獅子頭を持つ者を肩車で支え、力強くトグロを巻いて立ち上がる所作が見所です。また、お多福の面をかぶったオタフクが登場するのも特色のひとつです。栖原の幸神社で演じられる三面獅子は、戦後になって國津神社のものを手本に演じられるようになったものです。

顯國神社の三面獅子と祭礼

湯浅の顯國神社の三面獅子は、獅子を2人で演じます。國津神社が、有田川流域で演じられるものに形態に近いのに対し、顯國神社は南側の地域のものと類似しています。顯國神社で行われる最も賑やかな祭礼は、毎年10月に行われる秋の祭礼です。古くは各地から騎馬行列が集まって、三面獅子とともに町内を練り歩きましたが、今はこども神輿が行列をなします。



顯國神社の三面獅子



御所車

